

関西の活かしたい自然エリア（エリア4 紀伊水道とその沿岸） 和歌山県・徳島県エコツアー体験学習

「関西の活かしたい自然エリア」の保全・活用のため、複数の府県域をまたいだ自然エリアを対象として、エコツアーの体験学習を行いました。

1 エコツアー体験学習の目的

広域連合で選定した自然エリアの保全・活用を進めるための手段としてエコツアーを計画・実施するにあたり、ツアーを構成するさまざまな要素を体験してもらうためのコースを設けました。

今回は、和歌山県から徳島県にまたがる自然エリア（4 紀伊水道とその沿岸）を対象としています。その目的は以下の通りです。

- 生物多様性や自然の恵みの重要性、自然と人の営み（歴史、文化）等について多様な視点からの気づきを得ること。
- 自然エリアを行政や活動団体、旅行会社、教育機関等が活用する手段として、エコツアーを企画・運営するための足掛かりとすること。

2 日程・参加者等

- ・日程は平成30年10月23日(火)・24日(水)の2日間。
- ・今回の参加者は検討委員、自治体、旅行業関係者、学生等の計23名（ただし、1日目は17名）。
- ・エコツアーの訪問地間の移動は貸切バスを利用しました。
- ・各訪問場所では有識者や保全活動実施者等に、訪問地の特徴や歴史、活動内容等を解説して頂きました。

3 エコツアー体験学習の概要

1 日目 (10/23) 和歌山県～徳島県のルートおよび所要時間等

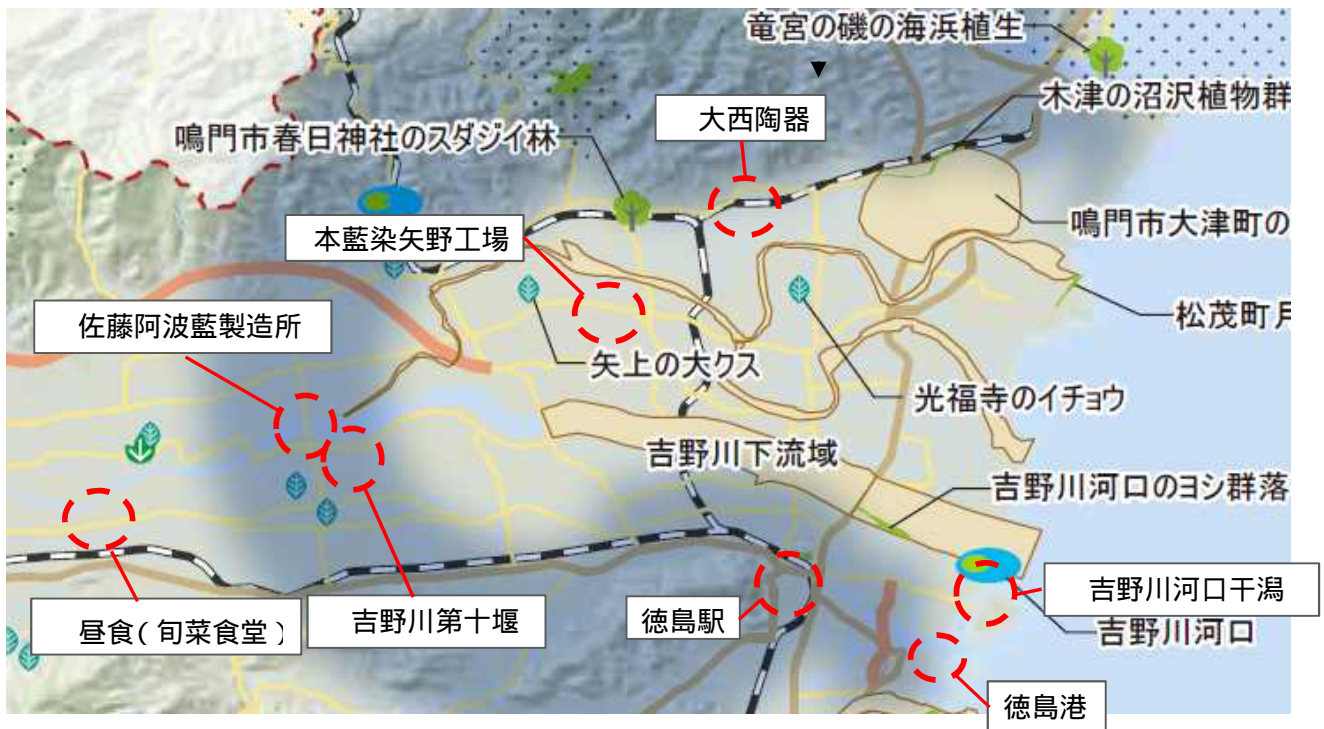


エコツアー1 日目 (10/23) の行程および所要時間

	訪問地等	所在地	着時間	発時間	備考
	起点 1 (JR 新大阪駅)	大阪市		8:30	
	起点 2 (JR 和歌山駅)	和歌山市	10:10	10:15	和歌山県からの参加者が合流
	起点 3 (和歌山港)	和歌山市	10:30	10:30	徳島県からの参加者が合流
	和歌山県立自然博物館	海南市	11:00	12:00	干潟の自然環境、文化、景観の全体説明
	和歌浦干潟	和歌山市	12:10	13:00	干潟の生きもの観察等
	昼食 (やぶ新)	和歌山市内	13:10	14:10	シラス料理等
	玉津島神社	和歌山市内	14:20	15:25	歴史 (和歌と紀伊水道等)
	紀伊水道	和歌山県・兵庫県・徳島県	16:40	17:20	和歌山港から徳島港へ、フェリーで移動しながら適宜、学習
	徳島港	徳島市	18:30	18:40	
	ワークショップ	徳島市	18:50	21:00	徳島ワシントンホテルプラザ
	解散 (JR 徳島駅)	徳島市	21:10		各自宿泊先へ

～ がエコツアーでの訪問地

エコツアー2日目（10/24）の行程および所要時間



エコツアー2日目（10/24）の行程および所要時間

	訪問地等	所在地	着時間	発時間	備考
	起点 (JR 徳島駅)	徳島市		8:30	
	吉野川河口住吉干潟	徳島市	8:55	9:35	干潟の見学、解説
	吉野川第十堰	名西郡石井町	10:20	11:15	吉野川の歴史、氾濫対策等
	昼食 (旬菜食堂)	名西郡石井町	11:40	12:25	地産食材を使ったランチ
	佐藤阿波藍製造所	板野郡上板町	12:40	13:25	タデからすくも製造工程の説明、藍文化の解説 (すくもづくり)
	本藍染矢野工場 (藍染め体験)	藍住町	13:40	15:15	ハンカチの藍染め体験等
	大西陶器	鳴門市	15:35	16:05	大谷焼の窯見学
			16:05	16:25	エコツアー総括
	終点1 (JR 池谷駅)	鳴門市	16:35	16:45	地元地域からの参加者が解散
	終点2 (名谷駅)	神戸市	19:00	19:10	
	終点3 (JR 新大阪駅)	大阪市	20:10		最終解散場所

～ がエコツアーでの訪問地

4 各訪問地の概要と当日の様子

1 日目の訪問地 和歌山県立自然博物館

滞在時間：60分(11:00-12:00)

内 容：館内の紹介と和歌山県の生きもの（特に海の生きもの）に関する解説

和歌山県立自然博物館は、「和歌山にこだわる！」をコンセプトに、和歌山県で見られるたくさんの生きものが展示されています。自然エリア 4「紀伊水道とその沿岸」に生きるたくさんの生きものを見て学ぶことができます。

当日は、館内を回りながら、学芸員の方に館内の紹介と和歌山県の生きもの（特に海の生きもの）に関して解説していただきました。また、普段は入れない博物館のバックヤードを特別に案内していただきました。



学芸員の方による生きものや館内の解説



バックヤードを特別に案内

1日目の訪問地 和歌浦干潟

滞在時間：50分(12:10-13:00)

内 容：干潟の生きものの紹介・観察、景観の紹介等

和歌浦干潟は、「わかの浦に 潮満ちくれば潟を無み 芦辺をさして 鶴鳴きわたる」と万葉の歌聖：山部赤人によって和歌にも詠まれた景勝地で、歴史的にも文化的にも価値が高い場所です。

和歌浦干潟は、泥・砂・レキ等干潟のさまざまな環境がそろっており、自然豊かな生きものの宝庫としても有名です。ハクセンシオマネキ、イボウミニナ、そして「和歌浦」の名をもつワカウラツボ等絶滅危惧種を間近で観察することが出来る数少ない干潟でもあります。

当日は、和歌山県立自然博物館の学芸員の方に、和歌浦の景観や歴史について解説していただきました。また実際に干潟に降りて、そこで見られる生きものの観察を行いました。



和歌浦の景観と歴史についての解説



干潟の生きもの観察

1日目の訪問地 昼食（やぶ新）

滞在時間：60分(13:10-14:10)

内 容：昼食（しらす丼、かき揚げ等）、和歌山の漁法の解説

和歌浦漁港おとっと広場にある「やぶ新」で、地元産の新鮮なしらすを使ったしらす丼とかき揚げをいただきました。価格は1人あたり750円。

また和歌山県の職員の方に、和歌山県内の漁について解説していただきました。



しらす丼としらすのかき揚げ



和歌山県内の漁に関する解説

1 日目の訪問地 玉津島神社

滞在時間：65 分(14:20-15:25)

内 容：玉津島神社や和歌浦の歴史の紹介等

玉津島神社は名勝「和歌の浦」に鎮座し、古くから和歌の神様として多くの万葉人の信仰を集めてきた神社で、境内地は県指定文化財にもなっています。住吉大神（攝津）・柿本大神（明石）とともに「和歌三神」の一つとして、朝廷はもとよりひろく一般文人墨客から崇められてきました。

当日は、玉津島保存会の方から、玉津島神社や和歌浦の歴史について解説いただきました。その他、和歌浦を一望できる奠供山（てんぐやま）や不老橋を訪問しました。



玉津島神社



玉津島神社や和歌浦の歴史の解説

1日目の訪問地 紀伊水道

滞在時間：40分(16:40-17:20)

内 容：フェリーで移動しながら、自然エリア4「紀伊水道とその沿岸」全体に関する解説

紀伊水道は、太平洋沿岸域の北側の水道部で、吉野川の大規模な河川が流入し、河口部には干潟や塩性湿地が見られます。海岸は自然海岸が主体で、岩礁や砂丘、石灰岩地（白崎海岸）等様々な環境が見られます。このように多様性に富んだ海岸沿いの環境には、それぞれの環境に特有な希少な動植物が生息・生育しています。

紀伊水道は釣りや海水浴といったレクリエーションの場所である他、海域全体が漁場となっています。生態系のつながりの視点としては、紀伊水道の沿岸の海岸線はほとんどが自然海岸であり、陸から海への移行帯（エコトーン）の連続性が維持されています。また、河口域・汽水域は魚の稚魚が育つ「海のゆりかご」となっており、成長した魚は海に戻ります。

当日は、有識者の方から、紀伊水道全体の生態系、生物多様性に関する事や成ヶ島等、「自然エリア4 紀伊水道エリア」に含まれる様々なホットスポットについて解説していただきました。



フェリー上で紀伊水道の解説



淡路島方面を望む

2日目の訪問地 吉野川河口干潟

滞在時間：40分(8:55-9:35)

内 容：干潟に関する解説、干潟の生きものの紹介・観察等

吉野川は「四国三郎」とも呼ばれ、日本を代表する暴れ川としても有名です。野鳥や干潟生物の宝庫であり、渡り鳥の中継地点となっています。

当日は、吉野川で長年生きものを観察されている方から、干潟に関する解説、干潟の生きものの紹介をしていただき、実際に生きものを観察しました。



干潟の生きものの観察



干潟に生息するシオマネキ

2日目の訪問地 吉野川第十堰

滞在時間：55分(10:20-11:15)

内 容：吉野川について(特に氾濫とその対策に関する歴史)の解説、NPO法人 川塾の活動紹介

吉野川第十堰は、農民は水不足や塩害の解消を目的に吉野川を分流するため築かれた堰で、江戸時代に築かれた後、明治時代以降の改修で現在の姿となりました。

当日は、現地で活動されているNPO法人の方から、吉野川の氾濫とその対策に関する歴史や、日ごろの活動について解説していただきました。



NPOの方による解説



第十堰

2日目の訪問地 昼食（旬菜食堂）

滞在時間：45分(11:40-12:25)

内 容：昼食（地元の素材を使ったランチ） お土産購入

「阿波食ミュージアム 旬菜食堂」で地元食材を使った昼食をいただきました。今回のツアーでは特別に、エコツアー限定メニューを用意していただきました。



本エコツアー限定の特別メニュー



デザートも特別メニュー

2日目の訪問地 佐藤阿波藍製造所

滞在時間：45分(12:40-13:25)

内 容：吉野川下流部の藍文化についての解説、すくもづくりについての解説

阿波藍の歴史

藍（アイ）とはタデ科イヌタデ属の植物で、タデアイとも呼ばれます。古くから世界各地で青色の染料として栽培・利用されてきた植物です。

藍の乾燥葉を発酵させてつくる天然藍染料を「すくも」と言います。天然藍染めは、すくもを使った染料液によって染められます。そして、徳島で製造される「すくも」を「阿波藍」と呼びます。

徳島の吉野川下流域は、吉野川の氾濫により稲作をするには条件が悪い地域でした。一方で、吉野川の氾濫は下流域に肥沃な土地をもたらし、水の便もよく、藍栽培にとっては適した地域でした。

そのような状況で、藍栽培は洪水の被害が少なく、稲作りよりも収益の高い作物として発展していきました。

当日は、佐藤阿波藍製造所さんに、藍染めの原料となる「すくも」（アイという植物を発酵させたもの）の作り方や職人の技、吉野川下流部の藍文化について解説していただきました。



佐藤阿波藍製造所さんによる解説



発酵中の「すくも」

2日目の訪問地 本藍染矢野工場

滞在時間：95分(13:40-15:15)

内 容：本藍染めについての解説、ハンカチの藍染め体験等

本藍染矢野工場さんでは、本藍染めについて解説していただいた後、ハンカチの藍染め体験を行いました。



ハンカチの藍染め体験



大谷焼の大甕（おおがめ）とすくも
青い塊がすくも

2日目の訪問地 大西陶器

滞在時間：30分(15:35-16:05)

内 容：大谷焼の工場見学、大谷焼に係る文化の解説

大谷焼（おおたにやき）は、徳島県鳴門市大麻町の名産品で、県を代表する陶器です。ざらつきが感じられる風合いと、かすかな光沢を放つ質感が特徴です。

作り方にも特徴があり、大甕（おおがめ）などの大物陶器を作る際に、助手が作業台の横に寝ころび、足でろくろを回す「寝ろくろ」という技法があります。

当日は、大西陶器さんに大谷焼の工場を見学させていただき、大谷焼やその文化について解説していただきました。



藍染めにも使われる大甕（おおがめ）



大谷焼の伝統的製法「寝ろくろ」